

正々堂々、真つ向勝負で挑む相撲を完成すべく、
高田川親方に我が命を預け、
皆様のご期待に添うよう努力して参ります。
今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

輝 大士



輝 大士
 本名: 達 綾哉
 生年月日: 平成6年6月1日
 血液型: O
 出身地: 石川県七尾市
 初土俵: 平成22年3月場所
 身長: 193cm
 体重: 155kg
 得意技: 突き押し

入門から十両までの勝敗表

場所	地位	初	二	三	四	五	六	中	九	十	十	十	千	初土俵以来成績	身長/体重/年齢	備考
		日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日			
平成22年	3月場所	-	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	2勝0敗	193cm/145kg/15歳	新弟子検査・合格
	5月場所	東/序ノ口13	○	-	-	○	●	○	-	○	-	-	-	6勝1敗		
	7月場所	東/序二段50	○	-	●	-	○	-	-	○	-	-	-	6勝1敗	16歳	
	9月場所	東/三段目84	○	-	○	-	○	-	●	-	○	○	-	6勝1敗	193cm/146.5kg	
	11月場所	東/三段目25	-	○	-	○	○	●	○	●	-	○	-	4勝3敗		
平成23年	初場所	西/三段目11	-	○	●	-	○	●	-	○	●	-	○	2勝5敗		
	3月場所		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			本場所・中止
	5月場所	東/三段目37	-	○	-	-	○	●	○	●	○	-	-	4勝3敗		技量審査場所
	7月場所	東/三段目12	○	-	-	○	○	●	-	○	-	○	●	5勝2敗	17歳	
	9月場所	西/幕下53	●	-	○	-	○	-	○	-	○	●	-	4勝3敗	193cm/146kg	
平成24年	11月場所	東/幕下46	○	-	○	○	-	○	●	○	-	○	-	4勝3敗		
	初場所	東/幕下40	○	-	○	○	-	○	-	○	○	-	-	6勝1敗		
	3月場所	東/幕下16	-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	2勝5敗		
	5月場所	西/幕下31	○	-	○	○	○	-	○	-	○	-	-	5勝2敗		
	7月場所	西/幕下19	○	-	○	○	-	○	-	○	○	-	-	5勝2敗	18歳	
平成25年	9月場所	西/幕下11	-	○	○	-	○	-	○	○	○	○	-	2勝5敗	193cm/147kg	
	11月場所	西/幕下25	-	○	-	○	-	○	-	○	-	○	○	5勝2敗		
	初場所	東/幕下14	○	-	○	-	○	○	○	○	○	○	-	3勝4敗		
	3月場所	西/幕下21	-	○	○	-	○	○	-	○	○	○	-	3勝4敗		
	5月場所	東/幕下33	-	○	-	○	○	○	-	○	○	○	-	3勝4敗		
平成26年	7月場所	東/幕下44	○	-	○	-	○	-	○	-	○	○	-	4勝3敗	19歳	
	9月場所	東/幕下38	-	○	○	-	○	-	○	○	○	○	-	4勝3敗	193cm/144kg	
	11月場所	西/幕下29	-	○	○	-	○	-	○	-	○	○	-	5勝2敗		
	初場所	東/幕下19	○	-	○	-	○	-	○	-	○	○	-	4勝3敗		
	3月場所	東/幕下13	○	-	○	-	○	-	○	-	○	○	-	4勝3敗	191cm/133kg	
平成26年	5月場所	西/幕下9	-	○	○	○	-	○	-	○	-	○	-	4勝3敗		
	7月場所	東/幕下7	○	-	○	-	○	-	○	-	○	○	-	5勝2敗	20歳	
	9月場所	西/幕下3	○	-	○	-	○	-	○	-	○	○	-	4勝3敗	193cm/155kg	十両昇進



輝 — 十両への道程 —

平成六年(1994年)六月二日、4歳年上の姉、2歳年上の兄に続く末っ子として、達綾哉は石川県七尾市で生まれた。際立って大きい子どもではなかったが、4歳頃には周囲の子よりもよりひと回りもふた回りも大きな体格になった。綾哉の父・幸は、「既成の制服では合うサイズがなくなってしまう、強引に袖を通して、ぱつぱつのまま着ていました」と明かしている。もともと幸は身長187センチ、綾哉の祖父にあたる一幸の父も身長180センチほどあったというから、達家の血筋らしい成長ぶりだったといえる。

小学校に入学すると、近隣の人から「七尾相撲スポーツ少年団に入らないか」と誘いを受けた。それまで綾哉は稽古事や習い事をしたことがなく、誘われるがまま遊び感覚で入会した。そして小学二年生のとき、七尾市の大会で初優勝を遂げる。

「この頃、ようやく勝つ楽しさを知るようになったんだと思います。その後もそここの成績を残してきたのですが、北信越地区で優勝できても全国では通用しませんでした。六年生のときに、初めて全国三位になれたんですよ」

息子が出場する大会すべてを観戦してきた幸が述懐する。綾哉も、当時の喜びを記憶している。

「全国大会で初めての入賞。準決勝まで進めて、とてもうれしかったことを覚えてます」

転機が訪れたのは、中学校への進学を控えた時期である。当初、地元中学校に進学するつもりでいたのだが、金沢市の西南部中学校の相撲部・山本実朗監督から声がかかったのである。西南部中学校は相撲の強豪校であり、綾哉もその存在を知っていた。

山本監督から一幸に伝えられたのは、「自分の自宅で面倒を見る。預けてほしい」というものだった。「一幸は綾哉に」

宅に残って地元の中学校に行くか、あるいは金沢の監督宅で世話になりながら西南部中学校に行くか。どちらが良いかと問うた。綾哉は「金沢に行く」と即答した。

「基礎を徹底的に教える方針で、仮に中学生のときに良い戦績を出せなかったとしても、その後に強くなれる稽古を積むのだと耳にしたことがあったのです。ですから、迷いはありませんでした」

綾哉は当時の思いをこう語る。そして監督宅に居を移し、本格的に相撲を始めることになった。中学校一年生のとき、すでに綾哉の身長は183センチ、体重は108キロ。立派な体格を備えていたが、技術はまだ未熟であった。綾哉自身、入部してすぐに己の未熟さに気づいたという。

「小学生のときは、身体が大きさだけで勝っていたとわかりました。監督は、基本となる押す技術を徹底的に指導してくださいと、結果として突き押しを得意とすることができたのです」

そして平成二十年、全国都道府県中学生選手権において団体戦と個人戦で優勝。見事に才能を開花させた。次に目指すべきはプロの世界である。高田川部屋へ見学に訪れ、角界とも言われる厳しい稽古を目にした綾哉は、「中学校を卒業したら高田川部屋に入門する」と心に決めていた。

翌年二月十二日、綾哉ひとりだけの卒業式が行われた。卒業証書を受け取ったのち、サプライズで友人から応援のメッセージをもらった。翌月の三月場所所で初土俵を踏み、4年目にして関取に昇進を果たすことになった。

「もう少し早く十両に上がったかった気持ちもありますが、ここまで順調に歩んでこられました。これからも、真つ向勝負の相撲を取っていきたいと思います」

(文中敬称略)